

修理して使われた縄文土器

近年、SDGsの一環としてリサイクル、リユースが一般化してきました。「破損したものをすぐには捨てず、修理したり部品交換したりして使い続ける」そうした考え方は、実は縄文時代の人々にもあったようです。

この資料は、馬場裏遺跡第二〇次調査（桜町）で出土した土器で、深鉢という種類になります。

縄文時代、深鉢は、煮炊きに用いたり木の実などを貯蔵したりするために使われました。炉や土中に固定して使っていたため、その形は底部が極端に小さく、上に行くほど広がる何とも不安定なものになっています。さらに、煮炊きに用いた場合には、所々に火を受けてすずが付き、黒くなっている部分が見受けられます。



馬場裏遺跡第二〇次調査出土の深鉢

胴部が膨らみ、くびれを持った後に、口縁部が4つの波型をもって開いていきます。いつ頃、どの地域で使われたかを知るための形や胎土、施文などを分類した型式としては関山I式という型式になります。縄文時代前期前半（約6千500年前ごろ）、関東地域に見られる型式で、体部はヘラなどで刻まれた複雑な沈線の組み合わせや縄を押し付けて施文する押圧文などで数段の区画に分けられています。その区画の間は、この時期の土器によく見られる羽状縄文（ひねった縄を、ひねりが左右対称になるように交互に転がしてつくる羽のようなV字模様）でびっしりと埋めています。

この深鉢の上部には、直径1センチメートルほどの丸い孔が2カ所確認できます。よく見ると2つの孔の間には、縦にひびが入っています。この孔は補修孔と呼ばれ、孔同士を植物のつるなどで縛り、割ってしまった土器を修復して使っていた痕跡です。同じような補修をした土器の中には、このひびをさらに漆などで閉じた事例も見つかっています。残念ながらこの土器にはそこまでの痕跡は見つけられません。縄文時代の人々が大切に用いていたお気に入りの逸品だったのかもしれません。

（郷土博物館 浅見貴子）

はじめまして



令和4年7月生まれのお子さんを募集します

- 5月1日(月)～31日(木)に電話またはEメールで広報広聴課(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、6月2日(金)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和4年5月生まれのおともだち



**岡本 隼叶ちゃん** (緑町)  
令和4年5月2日生まれ  
父・勇一郎さん 母・百合亜さん  
「いつも可愛い笑顔。ありがとう♡」



**加藤 鈴花ちゃん** (長野)  
令和4年5月20日生まれ  
父・辰彦さん 母・あゆみさん  
「いつも笑っていてくれてありがとう♡」



**黒滝 愛空ちゃん** (柳田町)  
令和4年5月8日生まれ  
父・太雅さん 母・綾乃さん  
「笑顔で元気。すくすく育ってね♡」



**飯塚 慧ちゃん** (城南)  
令和4年5月9日生まれ  
父・航さん 母・彩樹さん  
「いつも笑顔。ありがとう♡」



**平塚 優李ちゃん** (佐間)  
令和4年5月17日生まれ  
父・大樹さん 母・詩織さん  
「毎日幸せをありがとう！笑顔で大きくなろうね♡」



**佐藤 汰紡ちゃん** (谷郷)  
令和4年5月15日生まれ  
父・祥吾さん 母・星香さん  
「笑顔いっぱい。大きくなあれ！」

今月の表紙

4月から、自転車に乗る全ての人へのヘルメット着用が努力義務化されました。

幅広い世代に利用されている自転車ですが、交通ルールやマナーを守らないと重大な事故を引き起こす恐れがあります。一人一人が安全な運転を心掛け、楽しい自転車ライフを送りましょう。



行田市の  
マイナンバーカード交付率  
**63.1%**  
(4月1日現在)



詳細は総務省ホームページ